

2017 年度英米文学英語学専修 卒業論文題目一覧

- 文 14-0003 青 森 千 晶 *Short Term12* に見る苦悩と成長
- 文 14-0010 麻 田 瑞 季 Translation Issues in *Charlie and the Chocolate Factory*
- 文 14-0013 浅 野 祐 一 Translation into woman's language: Through L.M. Montgomery's *Anne of Green Gables*
- 文 14-0025 安 藤 拓 海 「アモンティリヤードの酒樽」論
- 文 14-0029 池 田 かな Bilingualism and Flexibility: A Case Study of Sequential Bilinguals
- 文 14-0030 池 田 理 華 What is a "Bilingual"?: Perspectives from Research and from University Students
- 文 14-0033 石 井 美 佳 消費者の脳に働きかけるマーケティング法—商品の価値を決定づける広告表現—
- 文 14-0046 市 場 里 奈 RADWIMPS が魅せる歌詞のメタファーと音楽の源泉—Oasis から受けた影響の分析—
- 文 14-0056 乾 仁 志 Translating *Bridge to Terabithia*
- 文 14-0060 井 上 あゆみ ホールデンの成長について —成熟と無垢—
- 文 14-0061 井 上 綾 弓 短編作品分析—視点を中心に作品を紐解く
- 文 14-0066 井 上 侑 子 Conditions on Ditransitives: With Restricted Give Expressions
- 文 14-0081 岩 本 瞳 *Flowers for Algernon* について —登場人物の反応の変化を通じて考察する—
- 文 14-0087 上 西 彩 音 *Sister Carrie* —キャロライン・ミーバーの歩み—
- 文 14-0091 上 間 早 記 コミュニケーション能力の水準：日英語比較
- 文 14-0106 永 治 有 沙 Input-Output Balance in English Class at Japanese Junior High School
- 文 14-0109 遠 藤 綾 乃 『日の名残り』論—スティーブンスとミス・ケントンの関係と物語の結末について
- 文 14-0127 大 橋 稔 矢 Analyzing and Comparing Differences between English and Japanese in Darren Shan's "SAGA OF DARREN SHAN-Cirque Du Freak"
- 文 14-0136 大 山 浩 美 Promoting Collaboration between JTEs and ALTs in Japanese English Classes
- 文 14-0142 岡 本 慎二郎 多義語の効果的学習とは—英単語 *for* の中心的意味—
- 文 14-0165 尾 上 勝 利 『ロスト・イン・トランスレーション』における孤独を与える契機—ディスココミュニケーションの表象となる電話と手紙、通訳者が与える効果—
- 文 14-0175 笠 原 悠 エスニックジョークの可能性—優越理論の包括性—
- 文 14-0202 榎 橋 祐 介 Balancing the four skills for class in junior high schools: to make better English class
- 文 14-0249 久 保 太 希 音楽家のインタビューに見る創作の源泉メタファー —ミュージシャンは導かれる—
- 文 14-0257 桑 原 佳 苗 *The Shawshank Redemption* にみる隠された真実

- 文 14-0266 小 滝 織 花 『緋文字』に見るホーソーンのピューリタニズム観
- 文 14-0269 小 西 舞 歩 『セブン』における疑似的な父子関係と一人称の語り手——悲劇的なラストシーンのために——
- 文 14-0282 五 島 凌 『フランケンシュタイン』における語りの効果
- 文 14-0284 才 野 さき子 The speech style of women bosses in Japanese and American television dramas
- 文 14-0303 迫 西 里佳子 *Howl's Moving Castle* と『ハウルの動く城』における主人公の成長過程の比較
- 文 14-0318 澤 井 健 斗 English in Singapore and Malaysia: Characteristics and Attitudes
- 文 14-0326 重 岡 さくら A study of British Attitudes toward Cockney Dialect
- 文 14-0358 砂 口 日向子 『赤毛のアン』 —主人公 Anne と周囲の人々の成長—
- 文 14-0373 高 野 由 奈 キョーツ作品における騎士 —彼にとって最も辛かったこと—
- 文 14-0374 高 橋 佳代乃 Do sequential / successive Japanese-English bilinguals experience changes in their way of thinking and acting or feel like they become a different person when they switch languages?
- 文 14-0379 高 橋 里 佳 女性らしさの日英語比較：言語と性差の視点から考える
- 文 14-0397 田 代 雄 平 Using African American Vernacular English and Standard English; A Questionnaire Study
- 文 14-0410 田 中 里 歩 広告レトリックの日英比較—無形商品と有形商品の傾向の違い—
- 文 14-0424 田 村 佑 樹 Ernest Hemingway 短編作品論—視点とエピソード—
- 文 14-0427 大 黒 咲 月 『秘密の花園』 —登場人物の成長—
- 文 14-0446 峠 大 夢 形容詞受け身形成と名詞化に関する考察 —英語における結果構文を題材として—
- 文 14-0447 東 條 里 奈 短編小説を読む—視点の効果と読者の役割
- 文 14-0449 戸 川 美紗子 ディズニープリンセス映画におけるプリンセスの変容とジェンダー
- 文 14-0453 歳 実 苗 ウィリアム・ブレイク研究 —彼が見る「無垢」と「経験」の世界——
- 文 14-0466 中 江 有里恵 *Beloved* におけるビラヴドの出現から消失までを辿る
- 文 14-0476 中 田 遥 『ブラック・スワン』におけるニナの分裂と統合
- 文 14-0486 中 西 裕 幸 人はなぜあいまいな言葉を使うのか
- 文 14-0487 中 野 慎 也 男性の会話スタイルの日英比較
- 文 14-0525 西 川 夢 映画ポスターに見る日米文化表現—その成り立ち、内容、ポスターまで—
- 文 14-0529 西 田 匠 ビートルズの歌詞に見られるメタファー —時代的変遷を背景とした認知言語学的分析—
- 文 14-0536 西 村 蒼 馬 『日の名残り』論—人物分析による信頼性の判断
- 文 14-0543 野 口 優 衣 『ライ麦畑でつかまえて』について
- 文 14-0546 野 邊 聖一朗 商品のネーミングと売り上げの効果について—人気商品のネーミン

グの特徴—

- 文 14-0569 早坂南美 短編小説試論—視点の効果と読者の役割
- 文 14-0571 林 芙久子 映画『アイ・アム・サム』における登場人物の変化—変化の様子と色の効果的演出—
- 文 14-0589 日比野 遥 依頼・誘いに対する断り方の日英比較
- 文 14-0593 平田大悟 英語の yes-no 疑問文におけるイントネーションについて—実際の会話での使われ方—
- 文 14-0616 福田真由 *Erin Brockovich* と *Baby Boom* における女性のサクセス・ストーリー
- 文 14-0636 藤田侑子 Cultural and Linguistic Problems of Kikokushijo: A Study on Japanese University Student Returnees
- 文 14-0637 藤田祐海 *The Sun Also Rises* —「失われた世代」に見る光と影—
- 文 14-0646 藤原美由紀 謝罪における言い訳の日英語比較
- 文 14-0650 船間 識 帆 Language Transfer in English Language Learning: A Study of Japanese University Students
- 文 14-0657 豊後涼太 『人間の絆』論—フィリップの人生を中心に
- 文 14-0664 前川実輝 Optimal Age to Learn a Second Language: Beliefs of Students and Teachers
- 文 14-0672 榎 隆 暉 使役移動構文と結果構文—メタファー的拡張を巡って—
- 文 14-0680 増山里奈 『魔法にかけられて』におけるプリンセス・ストーリーとのかかわり
- 文 14-0693 松村宏希 アンドルー・マーヴェルと庭
- 文 14-0700 松本 伶 菜 Demotivation and Motivation for Japanese Learners to Study English
- 文 14-0704 三浦良太 日本と英語圏の国々における CM の違い—視聴者への直接的表現—
- 文 14-0707 水野奈月 *East of Eden* におけるリーの役割について—カレブ・トラスクを救う者—
- 文 14-0720 三村彩果 アメリカ人と日本人の自己観の違い
- 文 14-0734 森 菜津美 English Learning and the Age problem: Perspective from Research and Japanese University Students' Beliefs
- 文 14-0742 森田優衣 日英韓の恋愛ソング—擬物化メタファーと脱人間化メタファーが伝える言葉と声—
- 文 14-0747 森脇美有 謝罪についての日英比較
- 文 14-0752 葉師寺彩花 英語の心理動詞と anaphora 束縛の関係について
- 文 14-0773 山下雅史 セント=ジョンと『ジェイン・エア』の構成
- 文 14-0779 山田美咲 『美女と野獣』からみるジェンダー論と女性の社会進出
- 文 14-0782 大和寛明 英語圏における広告—テレビ CM、屋外広告、インターネット広告と—  
いう媒体による効果の違い—
- 文 14-0787 山村紀翔 『ハリー・ポッターと賢者の石』が示す「勇気」の重要性
- 文 14-0788 山村正樹 『チャーリーとチョコレート工場』論
- 文 14-0791 山本沙苗 自己主張の仕方の日英比較
- 文 14-0821 渡辺大蔵 Learning Japanese and English as a second language

- 文 14-0825 和田 彩 花 ロアルド・ダール短編小説論―「女主人」と「やさしい凶器」に観る  
技法
- 文 16-3002 山 南 裕 哉 壁塗り交替にかかる制約
- 文 13-0001 青 木 奈 菜 Metaphors in *Twilight* by Stephenie Meyer
- 文 13-0014 阿 吹 未 歩 Translating Two of Hemingway's Short Stories
- 文 12-0486 中 村 直 志 ミュージカル映画における歌詞翻訳について アナと雪の女王と  
*Les Misérables* にみる言葉選び

## 2016 年度 英米文学英語学会会計報告

(2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日)

収入の部		支出の部	
前期繰越金	2,197,032 円	「英米文学英語學論集」第 3 号印刷代	372,600 円
特別会費	70,000 円	郵送料	12,872 円
学生会費	174,000 円	事務用品費	498 円
第 5 回学会懇親会費	14,000 円	図書券代	8,000 円
利息	17 円	雑費 (振込料・文具)	432 円
		次期繰越金	2,060,647 円
合 計	2,455,049 円		2,455,049 円

2016 年度英米文学英語学会会計報告について監査を行った結果、適正なものであることが認められますのでその旨証明いたします。

### 執 筆 者 紹 介

Young-min Oh (本学大学院 後期課程)

### 査読編集委員会

- |                           |                   |
|---------------------------|-------------------|
| ● Fred E. Anderson (本学教授) | 岩 田 彩 志 (本学教授)    |
| * 谷 口 義 朗 (本学教授)          | ● 野 口 メアリー (本学教授) |

\* 編集代表 ● 査読委員

## 学 会 開 催 報 告

関西大学英米文学英語学会・関西大学英语学会・関西大学大学院英語英米文学研究会 共催研究大会が2017年10月28日(土)13時より関西大学第1学舎5号館 E601・602にて行われました。詳細は以下のとおりです。

### [研究発表]

E601 英語学

Zhan Ying (D1) “Early Language Awareness in an English, Chinese, and Japanese Trilingual Two-year-old”  
司会 Fred E. Anderson

Oh Youngmin (D3) 「日英語のイディオム 一定義と分類に関する一考察」 司会 鍋島弘治朗

抽冬 紘和 (D7) 「異文化間コミュニケーションにおける Communicative competence としての Translanguaging の役割: グローバル教育現場でのエスノグラフィー研究から」  
司会 Fred E. Anderson

E602 英米文学

岩橋 恵子 (D2) 「新しいタイプの「信頼できない語り手」について —カズオ・イシグロの『日の名残り』を読む—」  
司会 干井洋一

浦 千里 (D7) 「シェイクスピアが描く詩人のペルソナ」  
司会 干井洋一

### [卒論構想発表会]

E601

井上 侑子(岩田ゼミ) 「二重目的語構文の to 与格動詞と for 与格動詞について」  
司会 岩田彩志

榎 隆暉(鍋島ゼミ) 「結果構文と使役移動構文—メタファーの拡張を巡って—」  
司会 鍋島弘治朗

重岡さくら (Andersonゼミ) “Attitudes toward the Cockney dialect of English” 司会 Fred E. Anderson

山本 沙苗(野口ゼミ) 「自己主張の仕方: 日英比較」  
司会 野口メアリー

E602

青森 千晶(秋元ゼミ) 「Short Term 12に見る苦悩と成長」  
司会 秋元秀紀

五島 凌(干井ゼミ) 「『フランケンシュタイン』における語りの効果」  
司会 干井洋一

高野 由奈(Donovanゼミ) 「キーツ作品における騎士」  
司会 Richard Donovan

山下 雅史(谷口ゼミ) 「『ジェイン・エア』における物語の構造と登場人物」  
司会 谷口義朗

[講演] “What’s So Funny? Navigating Humor in Translation.” (ユーモアの翻訳)

講師 Juliet Winters Carpenter<sup>1</sup>

司会 Richard Donovan

---

<sup>1</sup>同志社女子大学 表象文化学部英語英文学科教授

---

### 【編集後記】

本年度の行事も、主なものとしては新二年生のオリエンテーションと卒業式を残すのみとなりました。本号には院生からの投稿論文が一編あり、結局この論文と優秀卒論7編を掲載することになりました。なお査読にはアンダーソン先生、野口先生にあたっていただきました。

## 『英米文学英語学論集』投稿規定

- 1 投稿資格  
本会の会員であること。その他、評議員会で適当と認められた者。
- 2 投稿論文及び翻訳  
投稿論文は、未発表の学術論文であること。口頭発表を基にした論文は、その旨を明記すること。論文の長さは、和文の場合四〇〇〇字詰め原稿用紙三五枚程度、英文の場合七〇〇〇語程度。なお、投稿原稿は返却しない。  
翻訳は本邦初訳であり、かつ著作権上の問題が発生せず、研究上の意義が認められるものに限る。
- 3 投稿の採否  
投稿原稿の採否は、査読編集委員会あるいは同委員会が委嘱する査読者の評価に基づいて、査読編集委員会が決定する。
- 4 書式上の注意
  - i 注は本文の末尾にまとめる。
  - ii 注のナンバ―は肩付き、数字はアラビア数字（かっこなどで枠付けしない）を用いる。
  - iii その他、書式の細部については次のいずれかの規定に従うこと。
    - ① *MLA Handbook for Writers of Research Papers* (Fifth Edition)
    - ② 『MLA英語論文の手引』（第5版）（北星堂）
    - ③ 日本英語学会機関誌 *English Linguistics* 投稿規定
    - ④ *The Chicago Manual of style* (Fifteenth Edition)
    - ⑤ *A Manual for Writers of Term Papers, Theses, and Dissertations*
    - ⑥ *APA (American Psychological Association) Style*
  - iv 日本語による論文には英文タイトルを付すこと。
- 5 原稿締め切り  
原稿の締め切りを原則として毎年12月末とし、翌年3月までに刊行するものとする。
- 6 電子化による公開  
投稿した論文等が本論集に掲載された場合、投稿者はその論文等が関西大学学術レポジトリに登録されることを許諾したものとす。ただし投稿者本人の事前の申し出により登録を辞退することができる。

## 関西大学英米文学英語学会会則

第一条 本会は関西大学英米文学英語学会と称しその事務局を関西大学文学部総合

人文科英米文学英語学専修合同研究室に置く。

第二条 本会は英語学・英米文学の研究の促進と研究成果発表を目的とする。

第三条 本会は第二条の目的を達成するために次の事業を行なう。

一、機関誌『英米文学英語学論集』の刊行。

二、その他、大会、総会、談話会、講演会など、本会が必要と認めたこと。

第四条 本会は次の者をもって会員とする。

一、本文学部総合人文科英米文学英語学専修の専任教員。

二、本文学部総合人文科英米文学英語学専修及び同大学院文学研究科

英米文学英語学専修の学生。

三、右の卒業生及び修了生であつて本会に入会を認められた者。

四、本文学部英文学科（旧）の在職経験者中に入会希望者。

五、本学の名誉教授その他評議員が推薦した者で入会を希望する者。

第五条 本会に次の役員をおく。

一、会長 会長（一名）は評議員の互選によりこれを選出する。

二、副会長 副会長（一名）は会長が指名するものとする。

三、評議員 第四条第一項の会員が評議員の責務を負うものとする。

四、委員 委員若干名は評議委員会で決定する。委員は編集・会計・

会計監査及び広報を分担する。

役員の任期は二年とし、再任を妨げない。

第六条 会費は第四条第一項に該当する者は年会費一万円を納入する。第四条第二項に

該当する者は千円を納入する。その他は年会費三千円を納入する。

会員は機関誌の配布を受けるとともに、これに執筆寄稿することができる。

第七条 この会則の変更は評議員の議決による。

（会則改正 二〇一八年二月十四日）